（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

（熊本県立高森高等）学校　平成２９年度学校評価表

１ 学校教育目標

「一人一人が輝く学校」～響き渡る“学び、優しさ、強さ”の個性あるハーモニー～のスローガンのもと、本校の教育の充実を図る。
（１） 学力の向上と進路指導の充実
（２） 健全な心身の育成
（３） 地域社会の期待に応える学校づくり
（４） あるべき姿を語り、実践する職員集団

２ 本年度の重点目標

（１） 言語活動、論理的思考能力育成の充実
（２） 生活指導の徹底
（３） 個に応じた学習指導と進路指導の徹底
（４） 人権文化の創造と、道徳教育の充実
（５） 地域と連携した教育活動の展開

３ 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果（◎／○）と課題（△）
大項目	小項目					
学校経営	学校改革の推進	○保護者と連携し、地域に信頼される学校づくり ○ＩＣＴを活用した「未来の学校」創造プロジェクトを通した授業改革	○地域や保護者の参加型行事を年３回以上実施し、本校教育の理解啓発を図る。 ○学校アンケートにおいて、「保護者との連携・対話を大切にしている」の回答が９０％を超える。 ○ＩＣＴを活用した本校独自の授業スタイルを確立する。	○授業参観、学校説明会、体育祭、文化祭など地域参加型の行事とする。 ○各学年、毎月１回以上、三者面談・家庭訪問や電話連絡、学級（学年）通信をとおして、各保護者と連携を図る。 ○教務部が中心となり、授業者による自己評価、及び校内の授業参観週間を通した他者評価を実施する。	B	○家庭訪問・面談等を通して、保護者との進路に関する共通理解等、連携を取ることができた。また、学校行事を地域参加型にすることで、地域への啓発に繋がっている。 ◎ “Takamoric Movement”による授業スタイルの確立に向け教員が共通認識を持ち、ICTを活用した授業改革を推進することができた。 △次年度は７０周年記念式典も行われる。保護者・同窓生も含めた地域への本校教育の啓発をさらに推し進めていく。
	魅力創造発信事業を通した地域への情報発信	○来年度の入学生４１人以上の確保	○年４回の中学校訪問と、年１回の教育懇談会を実施し、情報発信と情報収集に努める。	○教務部・進路指導部が中心となり６、９、１０、１月に中学校訪問を、１１月に教育懇談会を実施しする。	A	○教育懇談会（9月実施）や中学校訪問を通して、中学校の先生方と、より情報交換ができるようになり、効果があった。今後、中学生保護者への効果的な啓発が必要である。

学力向上	授業改革の推進	○言語活動及び論理的思考能力の育成及び表現力の育成	○日常的にＩＣＴ機器を活用した授業を実践する。 ○図書館活動を推進し、朝読書を徹底することで、学習環境を整える。	○参観授業や研究授業、スーパーティーチャー招聘による職員研修を実施し、指導力の向上を図る。 ○授業評価を実施し、授業改善を図る。	A	◎全職員がＩＣＴ機器を活用し、授業を実施することができた。 ◎国・数・英の３教科でスーパーティーチャーに指導していただくことができ、授業改革の一助となった。 ◎朝読書の徹底、授業での活用など、学習環境の整備推進を図った。
	個に応じた学習指導の実践	○知的好奇心を引き出す授業実践及び、自ら学び考える力の育成	○スタディーサプリや日々の課題、週末課題を通して、宅習の定着を図る。 ○個人添削指導を行い、個に応じた学習指導を実践する。 ○校内検定を通して、資格取得を目指す。	○習熟度別展開授業を行い、生徒の幅広い学力に対応する。 ○習熟度別に各々課題を出し、宅習時間の確保と、自ら学び、考える力を育成する。 ○校内検定を通して、全員、最低１つは何らかの資格取得を目指す。	B	◎習熟度別に課題を作成し、生徒はそれぞれの学力に応じた課題に取り組むことができた。 △校内検定の計画が不十分であり、指導が徹底しなかった。また、全員なんらかの資格を取得することができなかった。しかし、全員がなんらかの検定にチャレンジすることはできた。
キャリア教育(進路指導)	個に応じた進路目標の実現	○進路目標の設定と進路目標の実現に向けた指導	○生徒の進路希望状況を把握する。 ○生徒・保護者へ進路情報を提供する。 ○就職希望者への個別指導を実施する。	○全生徒への進路面談を実施し、個に応じた指導計画を策定する。 ○大学等の講師招聘による説明会を開催する。 ○進路通信等を発行する。 ○外部による就職面接指導を実施する。 ○内定者セミナーを実施する。	A	◎進路決定１００％（９年連続）達成することができた。 ◎定期的な進路希望調査、家庭学習時間調査を行い、生徒の実態をつかむことができ、生徒面談の充実と志望別の進路計画の策定ができた。 ◎定期的な進路研修と、進路検討会の実施で職員の共通理解が深まり、統一した指導が可能になった。 ◎大学訪問及び講師招聘による講義も実施できた。 ○進路通信を発行し情報提供を行うなど進路指導に関する学校評価は改善した。しかし、保護者の進路通信の認知度の低さも感じられる。保護者への周知が必要である。 △就職内定までの取組は、外部指導を導入するなど良好であったが、内定後の指導が確立できておらず多くの課題が残った。
	キャリア教育（進路指導）のシステムの構築	○卒業後を見据えた、３年間の系統的な進路指導システムの構築	○生徒の進路希望状況の変化に対応した、３年間の進路指導計画を構築する。	○進路希望調査を年３回実施する。 ○インターンシップや保育実習等の学校行事との連携を図る。 ○学習時間調査を実施する。	B	◎進路行事の見直し・精選を行い、新しい３年間の指導計画が策定できた。 △就職希望者に対してはインターンシップや職場見学等を計画的に実施することができたが、幅広いキャリア教育を意識した指導が必要である。 ◎進路希望調査後の進路指導等や授業改革を

						通して、家庭学習時間が伸びてきている。 次年度は質の向上を目指したい。
生徒指導	ルール・モラル遵守の徹底交通安全教育の徹底	○交通ルール・モラル、情報モラル遵守の指導徹底	○安全点検、講習会参加等を実施し交通違反・事故をなくす。（年間目標０件） ○ＳＮＳを介した問題行動の未然防止、早期発見に努め、様々な機会を捉えて情報モラルについての意識を高める。	○原付実技講習会への原付免許所有者参加率１００％となるよう指導する。 ○安全点検率１００％、ジャンパー着用及びステッカー貼付率１００％（許可条件の徹底）、となるよう指導する。 ○毎年１回警察との連携による講話（夏季休業前）を実施する。 ○後援会総会や学校、クラス発行通信を利用して家庭へ注意喚起を行い連携を図る。 ○全国・県内のＳＮＳ関連事案を紹介し必要ならば臨時全校集会等を実施し注意を呼びかける。 ○各教科でも情報関連教育の徹底を図る。	B	◎実技講習会に関係生徒全員が出席しており、実技講習会の意義を理解して、熱心に取り組む姿が見られた。 ◎点検率、着用、貼付率ともに良好であった。今後も安全運転を意識して事故防止に努めてほしい。 ○学期の始めと終わりに警察と情報交換を行い連携を図った。講習会も予定通り実施できた。 ○情報モラルに関しては、可能な限りの情報発信を行い注意喚起に努めたが、社会情勢を考えると、更に家庭への発信を増やし注意を呼びかける必要性が感じられた。いじめ防止対策も含め、生徒への呼びかけに関して、今まで以上に各クラスと連携して情報モラルに関する注意を促していく。
人権教育の推進	命を大切にする心を育む指導	○自他の命を尊ぶ態度の育成	○すべての教員が学習活動をとおし「命を大切にする心」を育む指導を行う。 ○行事等に、生徒が自尊感情を高め、自己実現を図るための在り方、生き方について学ぶ視点を入れる。 ○計画的な全校終礼を実施し、講話をとおして多様な価値観や命の大切さを学ぶ。	○教科指導において、関連する学習内容を確認し、学期に一度検証する中で、年間を通した指導を行う。 ○全校一斉弁当の日、共汗の日、青少年一日一汗運動を実施することで、生命、自然、地域に対する畏敬の念を高める。 ○全校終礼を年８回実施し、職員による講話を行う。	B	◎全校終礼を９回実施し、生徒は講話の内容を自らと重ねながら、多様な価値観や自らの在り方生き方を考えることができた。 ◎弁当の日や一日一汗運動等の行事の中で、自らの役割を自覚し、他の人と協調して取り組むことで、自他を尊重する態度を高めるとともに、地域に対する貢献ができた。 △人権教育の年間計画の見直しを行い、生徒・職員の人権意識を高めるためにどのような内容が有効か、推進委員会を中心に検討・是正をしていくことが必要である。
	人権感覚の育成 人権文化の創造	○人権問題について基礎的認識の育成と向上	○年度末生徒アンケートの結果で「できるようになった」「ややできるようになった」の割合を８０％以上にする。	○自分のことや他者との関係等を振り返り、語り、綴る人権作文などの取組を行う。 ○身近な人権課題に関するＬＨＲを年２回実施する。	B	△生徒アンケートで「自他を大切にする姿勢」が向上したと回答した生徒は、昨年度と同様８７％であった。８０％以上ではあるが、本校の人権教育を抜本的に見直し、単なる行事の消化に終わらせるのではなく、生徒一人一人の抱える課題や背景に踏み込むような内容にしていく必要性がある。

いじめの防止等	いじめに気付き、いじめを許さない学校づくり	○いじめ根絶に向けた組織的な取組	○全職員であらゆる学校生活に於いて、いじめ防止に努める。	○道徳教育の充実を図る。 ○各学期末いじめ防止対策委員会を実施する。 ○学年会や特別支援会議での情報共有を行う。 ○毎月のサインの日（月末日）でのいじめ防止啓発を行う。 ○生徒理解研修等の職員研修を実施する。 ○年２回いじめアンケートを実施する。 ○家庭訪問、２者・３者面談を実施する。 ○気づきメモの活用	B	◎いじめ防止対策委員会を実施し、学校のいじめ発生状況を把握するとともに、スクールカウンセラーからの報告を聞き、課題を抱える生徒の状況についての理解を職員間でも深めることができた。また、スクールカウンセラーから、ＳＮＳ上でのいじめについての指導を受け、理解を深めることもできた。 ◎いじめアンケートを２回実施することで、本校でのいじめ発生状況を確認することができた。また、携帯端末の使用（ＳＮＳ等）状況についても確認することができ、それを踏まえて、職員研修を実施することができた。 △サインの日の活用ができなかった。次年度はＳＮＳの使用や他者とのコミュニケーションの仕方について、プリントを作成し配付をするなどしていじめ防止啓発を図る。 △職員への周知が徹底できず、気づきメモの活用ができなかった。ただし口頭では日常的に生徒の状況を話し合っていた。次年度は折に触れ周知を図る。
地域連携（ｺﾐｭﾆﾃｨ・ｽｸｰﾙなど）	○防災コミュニティ・スクールを通した地域連携 ○地域町村との連携強化	○防災意識の育成 ○地域と連携した教育の推進	○年１回の生徒･保護者･職員合同の防災研修を実施する。 ○学校防災年間計画を作成する。 ○ＩＣＴ機器を活用した教育の連携を強化する。 ○各種行事の連携を推進する。	○学校運営協議会と連携し、消防・役場等からの助言を基に研修計画、年間計画を立てる。 ○地域からの本校行事・イベントへの参加・協力を得る。 ○地域のイベントに生徒・職員が協力する。	A	◎共汗の日（８月）に防災講座を行い、生徒・保護者・職員の合同の研修を実施し、防災意識を高めることができた。 ◎年３回防災型コミュニティ・スクールを開催し、関係諸機関と災害時に想定される危険や課題を話し合い、助言をいただくことができた。 ○コミュニティ・スクールで出された課題や助言を踏まえて学校防災年間計画を作成した。 ○３学期に生徒対象の防災対策意識アンケートを行い、それを踏まえて防災教育ＬＨＲを実施し、防災について意見交換を行った。 ◎近隣施設から体育祭に参加していただいた。また、風鎮祭他、地域のイベントに生徒がボランティアとして参加した。 ◎情報教育の中学校担当者との連携、高森町のプログラミング学習研修への生徒参加、英語教育やICT活用教育に関する研究発表など、高森町と連携して実施することができた。

特別支援教育	支援対象生徒への手だての充実と進路保障	支援対象生徒の個別の教育支援計画作成の徹底	○１年生の個別の教育支援計画を１００％作成する。 ○生徒理解研修を年３回行い生徒の実態と個別の指導計画を職員全員に周知する。	○本人、保護者との連携を密に行い必要に応じて専門機関とも連携する。 ○全職員で生徒の状況を把握し、支援の方向性を検討して具体的な支援方法を決定する。	B	◎各担任を中心に本人、保護者との連携を密に行い、スクールカウンセラーや専門機関と連携して生徒の「困り感」に対応した。 ◎生徒理解研修、特別支援教育委員会の他、日常的に職員間で生徒の状況について把握し、具体的な支援方法を決定した。 △個別の教育支援計画・個別の指導計画を用いて職員間で共通認識を持つことができたが、日常的に活用する手段の検討が必要である。
健康教育	基本的な生活習慣の形成	心身の健康管理能力の育成	○自己の心身の状態について関心を高め､正しい知識を習得する。 ○新体力テストの個々の記録を向上させる。（自己の体力への意識付け及び体調の管理法を学ぶ。） ○朝食摂取率８０％以上を目指す。	○生徒、職員対象の応急手当講習会や薬物乱用・喫煙防止教育を実施し、関連のパンフレット等を配付する。保健授業と関連） ○継続した授業での体力向上プログラムを実践する。 ○保健だよりや食育通信を発行し、毎学期のアンケート調査を実施する。	B	◎７月に応急手当講習会を南部分署のご協力で実施できた。その際に応急手当のパンフレットも配布し、技能の習得に役立てた。 △生徒は体育の授業は真剣に取り組んでいるが、今年度は体力向上優良校表彰を数年ぶりに逃す結果となった。来年度は活動量を増やし、生徒の体力向上を目指したい。 ◎定期的に保健だより、食育だよりを発行し、健康に関心を高める手立てを行った。 △朝食摂取率は７６％であり、目標には届いていないので、今後も機会をとらえて生活習慣を規則正しく行うよう指導していきたい。
環境教育	環境の維持保全に寄与する態度の育成	学校版ＩＳＯと環境美化に積極的に取り組む態度の育成	○各教科等において､環境問題に関連した授業を実践する。 ○学校版環境ＩＳＯについて生徒が主体となって取り組む組織を構築する。	○生徒会を主体に環境ＩＳＯへの取り組みを具体化し、ＰＤＣＡサイクル（計画→実行→評価→見直し）をもとに実施する。 ○学校近隣への清掃活動ボランティアや美化活動のさらなる充実を図る。	B	○ごみの分別、節電、美化作業等、環境ＩＳＯに取り組むことができた。 ○1・２学期の近隣の美化活動である「青少年一日一汗運動」が降雨のため中止せざるを得なかったので高森町研究発表の高校部会会場である本校の清掃活動を実施した。３学期は天気にも恵まれ、１年間の感謝を込めて、交流センターと高森駅の清掃活動を実施することができた。（３年生は卒業列車の日に高森駅の清掃を行った。） ○夜市や風鎮祭後の片づけ、３年生による駅舎清掃等、地域の美化活動は実施できた。 特に、生徒会担当者の呼びかけで風鎮祭後片付けに多数の生徒が参加した。例年のＰＤＣＡサイクルを生かし、短時間で終了することができた。

４学校関係者評価

大項目１０項目を５部門【①学校経営（保護者・地域との連携（各種行事、防災教育・英語教育等の各種教育、保護者・地域・中学生への情報発信など、地域連携を含む）、②学力向上（ＩＣＴ機器活用授業改革、図書館活用の推進、個別指導の充実、合理的拝領の視点による特別支援教育等を含む）、③キャリア教育[進路指導]（一人一人の進路希望把握、生徒・保護者への情報提供、卒業を見据えた３年間の進路指導計画の構築など、④生徒指導（ルール・モラル[生活・交通・情報等]の遵守、人権教育の推進（自他の命を尊ぶ態度の育成・人権感覚育成）、いじめ防止に向けた組織的な取り組み等を含む）⑤健康教育・環境教育（個々の心身の健康管理、校内外の環境美化推進、学校版ＩＳＯの推進等を含む））に分けて、４段階による評価を実施し、どの項目に関しても本校の取組を積極的に評価していただいているし、また、下記の通り様々な取り組みを認めていただいている。

「高森高校の活性化は大きな成果を見ることができる」「南郷地域唯一の県立高校として地域をあげて応援する」「目標をしっかりと持って取り組んでいる」「ＩＣＴを活用した学力向上・生徒指導の充実・吹奏楽部を核とする部活動の活性化等、着実に前進している」「小規模校ならではの『個』を大切にした指導の実践、地域に根付いた学校として輝いてもらいたい」「９年連続進路決定１００％は素晴らしい」

５総合評価

ＩＣＴ活用による授業改革、本校教育の啓発活動など、様々な取り組みに関して、職員全員が共通理解のもと、前向きに取り組んでいる。特に、英語教育やＩＣＴの活用に関して、高森町の小中学校と協働で研究授業を行ったことは、南阿蘇地域全体からの本校への期待へとつながっている。次世代を担う生徒の育成を図る本校の教育に更なる工夫改善を図りながら、職員一人一人が信念をもって推進していく。

６次年度への課題・改善方法

（１）　ＩＣＴ活用教育推進校として、ＳＮＳの使用に関するルール・マナー遵守教育を推進する必要がある。生徒指導部を中心に推進することで、いじめ防止等にもつなげていく。

（２）　探究型の学習活動を行っている「グローカル・プロデュース」（総合的な学習の時間）は本校の魅力の一つである。１年次、２年次、３年次へと発展的に学習内容を継続していくために、進路指導部と教務部が十分に連携をとり、授業時間の確保、外部専門家との連携、成果発表の機会の設定に努める。

（３）　「Ｃｌａｓｓｉ」を全員導入することで、校内検定の見直しによる学び直しの強化や生徒のキャリア教育の推進を図ると共に、生徒・保護者・職員の連携と職員の負担軽減・業務改革につなげる。

（４）　地域連携の一環として行っている保育実習や学習支援ボランティア等による幼保小中連携を継続するとともに、中学校訪問を継続することで本校教育の魅力の啓発に努める。